

## 10月29日（火）授業研究・研究協議会

### 1 はじめに

広島大学大学院教育学研究科 宮里 智恵 教授，広島県教育委員会 義務教育指導課 渡辺 剛指導主事，西部教育事務所 安達 裕指導主事をお迎えし，4年1組で道徳科の授業研究会を行いました。また，今回は，『道徳教育改善・充実』総合対策事業」推進校としての授業提案も兼ねており，海田町教育委員会の指導主事，海田町内小中学校の校長先生，多くの教職員の方々をお迎えしての授業研究・研究協議会でした。家庭や地域と一体となった体験活動との関連を図った「道徳学習プログラム」の工夫と，「児童の多面的・多発的な思考と価値観への気づきを促すための道徳科の発問の工夫」について協議する場となりました。



### 2 研究授業

- (1) 道徳科 主題名：友達と信頼しあう【内容項目 B（9）感謝】  
教材名：「ぼくらだってオーケストラ」（東京書籍）
- (2) 授業者 第4学年1組 担任 小川 美恵子 教諭  
生徒指導主事 宇多 弘典 教諭
- (3) 本時のねらい

市の連合音楽会に向けて，練習を重ねるてつおとなつみの心情を考えることを通して，友達と互いに理解し合い，信頼し，相手のことを思って励まし合いながら共に伸びていく関係を築こうとする心情を育てる。

### 3 研究協議会

協議の柱1： 家庭や地域と一体となった体験活動との関連を図った「道徳学習プログラム」の工夫は，どうだったか。

協議の柱2： 児童の多面的・多角的な思考と価値観への気づきを促すための教師の発問の工夫はどうだったか。

#### (1) グループ協議会

上記の協議の柱をもとに，グループ協議で出された主な意見を紹介します。短時間でしたが，活発に意見が出されました。

- 道徳学習プログラムは日々の生活としっかりつながりがあり，教師が日々意識して仕掛けを作っている。
- 補助発問の引き出しが多く，次々と切り返し発問ができるのが素晴らしい。テンポはよかったが，じっくり考える時間も必要ではないか。深く考える時は静かに，じっくり取り組むことも必要。
- 保護者からの手紙は，児童の心に染みていった。学校での道徳科が家庭でも広がるのがよい。
- 構造的な板書にするために，キーワードを目立たせて書くとよいのでは。

## (2) 指導助言および指導講話

たくさんご指導いただいた中から、主なものを抜粋しております。

### 【西部教育事務所 安達 裕指導主事 指導助言】

- 児童実態をよく把握され、児童は自分の考えをよく発言した。
- 道徳学習プログラムを子どもに見える化しているのがよい。



### 【広島県教育委員会 義務教育指導課 渡辺 剛指導主事 指導助言】

- 日々の生活の見取りがあるので、柔軟な補助発問ができる。
- 「～してもらおう」の視点はあるが「～してあげる」の視点は弱くなりやすいので、「なつみ」に焦点を当てるとよい。
- 「書く活動」は必ず入れる必要はないが、目的に応じて必要であれば入れるとよい。
- 目標の書き方については、「～を通して」を入れる・入れないの両方の考え方がある。

### 【広島大学大学院教育学研究科 宮里 智恵 教授 指導講話】

- 45分間集中を切らさない授業で、児童が生言葉で語っていた。
- 指導案の児童の実態の書き方が分かりやすい。
- 指導案上に貫かれているキーワード「協力」があり、発問分析表による発問のA・B・Cの意図が明確だ。
- 導入、展開、終末が途切れていない授業、板書を活用する授業がよい授業である。
- 保護者の手紙は、他にはない最高の教材である。保護者が身近なモデルとなり、親を尊敬できる機会を与えることができた。またこのことにより、自尊感情が高まった。
- じっくり向き合う時間を確保するために、例えば、友だちと助け合う難しさをワークシートに書く活動、グループトークを入れると、よい。
- 生活に戻す場面では、もう少し待って、用意していた写真を提示するとよかったのではないかな。

## 4 最後に

本校が取り組んでいる「道徳学習プログラム」が道徳教育において大変有効だということを小川先生に実証していただいた授業でした。体育科のポートボールなど様々な教科・領域が結びつき、学級の認め合い協力し合う成長が感じられるプログラムになっていました。昨年度からの課題であった、有機的な結びつきのある「道徳学習プログラム」に対するヒントをいただきました。

また、本校が委託をうけている「道徳教育改善・充実」総合対策事業【メニュー3】「学校・家庭・地域の連携による道徳教育の充実・発展」に関連して、今回は「保護者の友情物語を手紙でもらう」という活動を仕組みられました。この活動を仕組むに当たっては事前の連携も必要ですし、児童は授業後、きっと家に帰ってから道徳科の授業について話題にするでしょうし、その後児童から保護者へのお手紙を国語科で書く授業もあるとのことで、常に学校と家庭が結びついています。こうした姿を拝見できたのが私たちの大きな学びになりました。

ご指導いただいた安達 裕指導主事、渡辺 剛指導主事、そして宮里 智恵 教授に大変感謝しております。また大変お忙しい中、授業を提供していただいたお二人の先生方に多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。